

# ザンビアは今、成長の真っ只中!!



白戸 義孝 (しろと よしたか)  
在ザンビア日本国大使館一等書記官

1976年生まれ。2001年国土交通省入省同年北海道開発局旭川道路事務所に配属、03年警察庁出向、12年4月外務省出向、在ザンビア日本国大使館に勤務。

ザンビアをご存じですか。アフリカ大陸の赤道より少し南にある内陸の国で、8カ国と国境を接しています。日本の皆さまにはなじみの薄い国ではないかと思えます。

私の大使館での仕事は、道路建設等の運輸インフラや電力開発等のエネルギー分野の政府開発援助(ODA) 案件に関する企画立案、ザンビアで現在活動または活動しようとしている日本企業のサポートです。ザンビアで2年間住んでみて感じたことについて紹介します。

## ザンビアはどんなところ？

ザンビアは日本からは非常に遠い国です。ザンビアへの飛行時間は、最低1回の乗り継ぎを経て約20時間かかります。直線距離で約15,000kmです。

ザンビアの人口は約1,300万人です。東京都23区と同じくらいの人口ですが、国土は日本全体の約2倍なので、人口密度はとても低いです。首都ルサカ市の人口は約150万人です。札幌市よりちょっと少ない人口です。

気候は、年間を通じて温暖で大変穏やかです。私が住むルサカ市の標高は約1,300mで、まるで高原に住んでいるような感覚です。標高が高い分、日差しが大変強く、最も紫外線量が少ない冬(ザンビアは南半球なので冬は6～8月です)でも、日本の真夏よりも紫外線量が多いです。しかし、空気は乾燥していてベタつかず、とても爽やかですし、年間を通じて冷暖房はほぼ必要ありません。

ザンビアの一人当たりのGDPは、約1,300USドル(約13万円)です。生活水準は先進国と比べると全く及びませんが、ここ10年間の経済成長率は年平均6～8%で推移しており、世界では経済成長率の高い国のベス



ト30に入る数字です。経済はとても好調といえますが、これはザンビアの主要輸出品目である銅の国際価格が中国の急激な銅需要の増加により、ここ10年間で急上昇したことが要因の一つです（現在は価格下落傾向）。ちなみに、日本はかつて、ザンビアから多くの銅を輸入していました。古い10円玉には、ザンビア産の銅が使われているかもしれません。

## ザンビアと日本の関係

ザンビアは今年、独立50周年、かつ日本との国交樹立50周年を迎えます。50年前といえば、日本では東京オリンピックが開催された年（1964年）でした。ザンビアは、東京オリンピックにイギリスの植民地「北ローデシア」として開会式に参加しましたが、オリンピック開催中に独立したため、閉会式には「ザンビア共和国」として参加しました。よって、東京で初めてザンビアの国旗が世界に飛ばれたというエピソードが残っています。昨年、2020年の夏期オリンピックが東京で開催されることに決まりましたが、昔を知るザンビア人には東京オリンピックとザンビア独立が一つの出来事として記憶に残っており、東京での開催決定にも大変好意的です。

ザンビアでは、2011年に政権が交代し、大統領に愛国戦線のサタ党首が就任しました。サタ大統領は2度日本を訪れていますが、アフリカの首脳が2年あまりで2度も日本を訪問したのは、ザンビアだけだと思います。12年10月に大統領ご一行が日本を訪問した際には、ザンビア大学と家畜伝染病等の獣医関連で協力関係にある北海道大学を訪れています。また、日本の観光産業を体感するべく、小樽の街を視察しました。

日本とザンビアの関係は昔から大変良好で、ザンビア国内を走る自動車は、現在でもほとんどが日本車（トヨタ車が多い）です。また、韓国家電企業が世界を席巻する前までは、テレビ、冷蔵庫、洗濯機等の家電製品はソニーやパナソニック等の日本メーカーでした。ザンビア人と話すと、日本製の家電は故障が少なく長持ちするので、とても重宝していたとの声を耳にします。

## ザンビアで活躍する日本企業

ザンビアでは、個人企業も含めると16の日本企業が拠点を置いています。代表的な企業は、トヨタザンビア（自動車販売）、日立建機ザンビア（重機メンテナンス）、JTインターナショナル（たばこ葉生産）、豊田通商ザンビア（貿易商社）です。特にトヨタザンビアは、ザンビア独立と同時期に自動車販売を開始しており、昨年、販売50周年を迎え、ザンビア政府の閣僚クラスや日本の大使等を招いた盛大なセレモニーが行われました。さらに、ザンビアに拠点はありますが、NECが1974年から現在に至るまで、電話回線の無線機器をザンビア電話公社に納入しています。

建設関係では、90年代から、清水建設が首都ルサカ市内の道路整備をODAにより実施してきました。その総延長は、ルサカ市内だけでも約130kmにも及び、全てが主要幹線道路です。その中には、ルサカ国際空港とルサカ市中心部を結ぶ道路も含まれており、ザンビアにおける首都交通の主要部分は日本の開発事業が担っています。さらに現在、清水建設が日本のODA事業でルサカ市内の環状道路「インナーリング道路」の一部を建設中で、今年中の完成を目指しています。



露天掘りの銅鉱山と筆者



工事中のインナーリング道路

## ザンビアの産業

ザンビアは銅の生産が盛んで、生産量はなんと世界第7位です。ザンビア北部にコッパーベルト州がありますが、コッパー（銅）の鉱山が多く立地している地域で、それがそのまま州名になっています。銅は精製された後、大型トラックにより周辺国の港から輸出されます。ザンビアでは、鉄道はほぼ輸送能力を有しておらず、物資の輸送には国際回廊といわれる周辺各国とつながる主要幹線道路が使われています。

また、ザンビアの南部には、世界三大瀑布の一つ「ビクトリアの滝」があります（残りの二つは、ナイアガラ滝、イグアスの滝）。ザンビア政府は、この素晴らしい資源を活用して観光産業を育てたいと考えており、昨年、隣国ジンバブエとの共同ホストにより、「世界観光機関（UNWTO）総会」がビクトリアの滝を有するリビングストーン市で開催されました（ジンバブエ側はビクトリアフォール市）。UNWTO総会は、過去に日本でも開催されたことがあります。UNWTOに加盟している約150カ国のいずれかの国で2年に1回行われています。昨年の総会には、世界各国から約4,000人も政府関係者、観光業界関係者が参加し、大きな盛り上がりを見せました。日本からは、国土交通省観光庁等が参加しました。私は、閉会式のみ参加しましたが、ザンビア政府がホストを務める初めての国際機関主催の大型会議ということもあり、ザンビア政府の観光産業への取り組み意欲を肌で感じる事ができました。なお、総会開催後、ビクトリアの滝に日本の観光ツアー団体が数度訪れており、日本のザンビアへの興味も少しずつ増しているのかとも思い、今後の観光産業がザンビア経済の一翼を担うことに大きな期待を抱かせます。

さらに、ザンビア政府は、自国経済発展の起爆剤と



ビクトリアの滝

して、海外からの投資促進に積極的に取り組んでいます。代表的な例としては、ザンビア国内に数カ所の複合的経済特区地域を設置し、そこに進出した海外の企業には、5年間の免税措置など、海外企業が様々な特約を受けられるような制度を設けています。また、政府の海外からの貿易投資促進の総合窓口としてザンビア商業通商産業省の外局としてザンビア開発庁（Zambia Development Agency:ZDA）を設立しています。

## 私を感じるザンビアの課題

ザンビアは、最近10年で急激な経済成長を遂げました。現在、建設、住宅、鉱業部門が好調で、この傾向は少なくともあと20年は続く予測する研究機関もあります。また、私の感覚として、自宅、自動車等を購入できるようになったザンビア人が増加したと実感します。実際、自動車の台数はここ数年急激に増加しており、現在、1日に約250台もの自動車の新規登録がなされています。ちなみに、ザンビアでは、ほとんどが日本製の中古車ですが、数十万～数百万円以上もする高級品です。

これにより、首都ルサカ市をはじめとし、地方都市でも激しい渋滞が発生するようになりました。ザンビア国内で主流の交差点形状は、ラウンドアバウト（旭川や釧路にあるロータリー交差点）ですが、これが、急激に増加した交通量を処理できなくなっています。日本では昨年、「環状交差点」が道路交通法で定められたと承知していますが、ザンビアでは、増え続ける交通量に対応するために、ラウンドアバウトを十字、丁字、立体交差等の交差点にし、信号を設置する等の対策が必要と感じます。

また、ザンビアでは、鉄道がほぼ機能を有しておらず、内陸国という立地条件もあり、道路交通の状態は、ザンビア国内の生活基盤を支える貿易活動の状態に直結します。ザンビア国内では、食料加工品、生活物資のほとんどを輸入に頼っているため、交通渋滞による貿易活動の停滞はザンビア人の日常生活に大きな悪影

響を及ぼします。

また、ザンビアでは、経済成長に伴い電力の需要が増加しています。ザンビアは、河川、地下水等の水に関し、南部アフリカ地域全体の約40%の水量を有し、その豊富な水資源を活用した水力発電により電力供給の98%をまかなってきました。しかし、電力需要に供給が全く追いつかず、ザンビア国内に暮らす人の約77%が電力を使えません。日本のODAでも送配電網の整備等を積極的に支援しています。持続的な経済成長のためには、産業の発展が必須ですが、それには膨大な量のエネルギーが必要となります。したがって、電力開発はザンビアにとって極めて重要です。ちなみに、私が住む地域では、ほぼ毎日、数時間の停電が発生しています。テレビやパソコンや室内灯が使えないのはもちろんですが、お湯が出ないので風呂に入らず、冷蔵庫の中のもの全部ダメになります。掃除機や洗濯機も使えなくなりとても不便です。

### ザンビアの開発ポテンシャルは高い

昨年、外務省は世界銀行等との共催で、第5回アフリカ開発会議（TICADV）を横浜で開催しました。アフリカの50カ国以上の国から首脳クラスが集い、今後のアフリカ開発のあり方について議論しました。アフリカは、地球最後のフロンティアといわれており、資源発掘、ビジネス等の面で開発の余地がものすごく多く、極めて高いポテンシャルがあります。TICADVで採択された「横浜行動宣言」では、日本とアフリカ各国は、双方が利益を享受するような関係になるべく、両国間の貿易投資促進が柱とされました。また、外務省は、日本の皆さまがアフリカでの活動に積極的に取り組めるよう、一層のサポートをしていきます。

ザンビアは、独立以降、治安が極めて安定しており、紛争等もなく、とても平和な国です。また、ザンビア経済を支える鉱業も未開発地域がまだ多く残っており、銅の他にまだ開発されていない石炭、エメラルド等の資源も豊富といわれています。さらに、農業の面では、豊富な水量と温暖な気候により、付加価値の高い農産物を生産することも考えられます。

ザンビア日本大使館では、日本企業がザンビアで活躍できるようサポートする「日本企業支援担当官」を設けています。また、今年1月、大使館は、ZDA、日本貿易振興機構との共催で、日・ザンビア貿易投資促進フォーラムを開催し、南アフリカ共和国やザンビアの日本企業、ザンビア政府等が一同に集いました。日本からザンビアへの投資を促進させる試みになったと思います。

ちなみに、ここ2年の間にザンビアを訪れた道内企業は1社（医療機器関係の会社）だけです。ザンビアは、積雪寒冷地関連の技術などが生かされない地域ですので、道内企業がビジネスの観点からザンビアに興味をもたれる機会は少ないかもしれませんが、ポテンシャルの高い国です。興味のある個人や企業の皆さんには、ぜひザンビア日本大使館のホームページにアクセスしてザンビアを少しでも知っていただくと幸いです。そして、ザンビアを訪問されるとのご連絡があれば、大使館としてこんなうれしいことはありません。アクセスいただいた皆さまには、できる限りの対応をさせていただきます。

※ 在ザンビア日本国大使館HP  
<http://www.zm.emb-japan.go.jp/indexj.html>  
HPの「ザンビア便り」「ザンビア役立ち経済情報」「ザンビアに暮らしてみよう」をぜひご覧ください。



ルサカ市中心部のラウンドアバウト



日・ザンビア貿易投資促進フォーラム